

JOSKAS-JOSSM2020

第12回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 ランチョンセミナー23

本セミナーはライブ配信による視聴が可能です。

公式ホームページより事前参加登録を行ってご視聴ください。

<http://www.congre.co.jp/joskas-jossm2020/index.html>

日時 2020年12月19日(土) 11:35~12:35

会場 第2会場 (神戸国際展示場 1号館 2F 展示室B)

〒650-0046 兵庫県神戸市中央区港島中町6-11-1

高齢社会における 変形性膝関節症のマネジメント ～疼痛治療を中心に～

座長

中川 晃一 先生

東邦大学医療センター 佐倉病院 整形外科 教授

演者

内尾 祐司 先生

島根大学 医学部 整形外科 教授

<日本整形外科学会教育研修講演>

■認定単位：(Re) 教育研修会運動器リハビリテーション単位

■必須分野：[12] 膝・足関節・足疾患

[13] リハビリテーション (理学療法、義肢装具を含む)

ご参加の皆様には、お弁当をご用意しております。(数に限りがあります)

共催：JOSKAS-JOSSM2020/ファイザー株式会社

高齢社会における変形性膝関節症のマネジメント ～疼痛治療を中心に～

島根大学 医学部 整形外科 教授 **内尾 祐司** 先生

高齢社会を迎えた今日、変形性膝関節症による ADL 低下は患者個人の生活のみならず‘健康寿命の延伸’を掲げる日本において社会的側面にも影響を及ぼすため、適切な診断、病態評価、治療に基づく疾患マネジメント方法の確立は喫緊の課題の1つといえる。

特に疼痛は運動療法を阻害する要因にもなり得るため、その軽減は関節機能の維持または改善、すなわち患者の日常生活動作の拡大と生活の質の向上を図る上で大変重要な位置づけとなる。疼痛の強度は X 線像の重症度と必ずしも相関せず、患者の心理的要素に影響されることが知られており、保存療法における除痛においては患者教育、運動療法、装具治療や薬物療法の適切な組み合わせと選択が必要である。

本日は、保存療法における薬物治療のうち、特に疼痛治療におけるトラマドール製剤の位置づけについて述べたい。